

生活科

1 生活科の学習の特質

生活科では、子どもの身近な生活圏を活動や体験の場や対象にし、子どもの日常生活において意味をもち、意義のあることを取り上げるようにする。

低学年期の子どもは、身近な生活圏で出会う人、社会、自然を一体的に感じ取る傾向が強く、自分とのかかわりにおいて一体的にとらえる。生活科では、遊びも欠かせない学習活動である。子どもが強い課題意識をもって熱中して遊ぶときは、その活動は子どもにとって真剣な学びや問題解決の場になっている。活動を通して子ども一人一人が、自己の内に生まれる思いや願いに気付き、それを自覚しながら、その実現をめざして一層活動する中に、「自ら学び考え、よりよく問題を解決する学習指導」が行われることが大切である。

また、生活科では、身近な人々、社会及び自然についての気付きとともに、そうした気付きをする自分自身の成長にも気付くことができるようになることを重視している。驚き、感動、発見し、不思議に思い、自ら考えるなどして気付いたことが、その後の子どもの学習や日常生活に返っていく。

このような特質から、地域環境を把握して地域の素材を生かした学習活動を取り入れていくことが必要となる。そのような具体的な活動や体験の場で、生活上必要な習慣や技能が身に付くよう、その都度必要に応じて取り上げ、子ども一人一人がよき生活者になるように促し、励ましていく。

2 生活科の教科目標

【教科目標】

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を培う。

生活科では、子どもが体全体で身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験を一層重視している。直接働き掛ける学習活動の見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの活動で、その楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などによって表現する学習活動を進める。そこで、親しみや知的好奇心・探究心を覚え、驚いたり喜んだりする活動や体験から、子どもを取りまく人々、社会及び自然が自分自身にとってもつ意味に気付き、身の回りにあるものをもう一度見直し、新たな働き掛けをしたり表現したりなどする。

3 各学年の目標

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。

地域とのかかわりを一層重視し、地域の様々な場所とのかかわりに関心をもつことや、自分たちの地域に愛着をもつことができるようにすることが新たに示された。

地域に愛着をもつとは、身近な人々や場所、公共物などに慣れ親しみ、それらに心がひかれ、離れがたく感じることで、地域の人々及び地域の様々な場所、公共物などと直接かかわる活動や体験を通してはぐくまれる。

(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。

身近な自然とのかかわりでは、子どもが自分の身の回りを見いだすことができる動物や植物、自然の事物や現象、季節による様々な自然の変化など、学校や校区の環境を調査して、子どもが素直にかかわっていくことができる教材を工夫しなければならない。

(3) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする。

直接体験を重視した学習では、その活動を振り返ってとらえ直すことが必要である。また、子どもが生み出した知的気付きを自覚させる活動が必要となる。教師が子どもの行為、振る舞い、しぐさ、つぶやき、表情などから気付きをとらえ、子どもの学びを見取り、それを意味付け、価値付けをすることで、知的な気付きの自覚化を促し、自信と意欲につなげていく。

4 生活科の内容

<内 容>

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| (1) 学校と生活 | (5) 季節の変化と生活 |
| (2) 家庭と生活 | (6) 自然や物を使った遊び |
| (3) 地域と生活 | (7) 動植物の飼育・栽培(2学年にわたって取り扱う) |
| (4) 公共物や公共施設の利用 | (8) 自分の成長 |

各学校において、地域や児童の実態に応じた多様な活動や体験が一層展開できるようにするため、扱う対象や場を広く選択できるようにする。

地域や児童の実態に応じた弾力的な指導ができるようにするため、2学年まとめて示してある。何をどう具体化すればよいか、各学校において、子どもの実態、保護者の願いや地域の要望などを踏まえて、検討する必要がある。

5 地域に愛着をもつ子どもを育てる生活科学習

指導資料生活第5号「ふるさとに愛着をもつ子どもを育てる生活科の学習指導」
(平成15年11月発行を参照)

内容(3)「地域と生活」

(3) 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかがわっていることが分かり、それらに親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

地域での活動は、様々な人々との出会いや、子どもにとって愛着のある人や場をつくる。

地域の人々や場

- | | |
|--------------------|-------------|
| ・ 近所の店や店の人 | ・ 友達の家やその家族 |
| ・ 公園などの公共施設やそこで働く人 | |
| ・ 保育園や幼稚園やその先生 | |
| ・ 近隣の人 | ・ 子ども会の人 |
| ・ 目印にしている場所や物 | |
| ・ 遊べる川や林 | |
| ・ 自分や家の人がよく通る道 | など |

地域に出る活動

- | |
|---------------------------|
| ・ 身近な幼児や高齢者 |
| ・ 障害のある人などと多様な人々と触れ合う場や機会 |

<育てたい力>

- (1) 地域の様々な場所がその子にとっての愛着のある場所となるようにする。

<場所への愛着>

子どもの思いや願いを生かした活動が展開できる
繰り返しかかわることができる
地域がより身近になり、**親しみ**や愛着がわく

人や場所を取り上げる。

- (2) ここでの活動をきっかけとして、地域の人々や様々な場所に対するそれぞれの子どもの親しみの気持ちや、愛着をさらに深めていくようにする。

- ・ 直接地域に飛び出す活動を構成する。
子どもが思いや願いをもって繰り返しかかわる活動
- ・ 地域に繰り返し出かけて、地域を探検する。
「もっと～したい」という思いを引きだし、地域への関心を広げる。
場所と人々を関連させて取り上げる。
場所と人が一体となつてとらえられたとき、さらに愛着が増す。

[例1] 内容(5)「季節の変化と生活」との組み合わせ

季節ごとに繰り返し地域とかかわる計画を立てる。
地域のある場所を拠点とし、様々な活動をそこで行う。

[例2] 内容(1)「学校と生活」(第1学年でこの内容を扱う場合)

通学路から地域へ広げる。

いくつかの散歩コースをつくり、何度も出かけていく中で、活動の対象や場を広げていく。

- (3) 地域の様々な人々と**適切に接する**ことが、子ども自身の生活を豊かに広げていくことにつながる。

<人々と適切に接する態度>

- ・ 元気に気持ちよいあいさつができる。
- ・ 用件を的確に伝えることができる。
- ・ 近所の人に話しかけることができる。
- ・ 買い物に行くことができる。
- ・ 友達と誘い合って遊ぶ遊び場が増える。
- ・ 危ない場所や、いつもと様子が違う場所には近づかないようにする。 など

- (4) 地域への親しみがわくと、地域での活動が一層活発になり大胆な活動になるので、安全な生活を意識させるようにする。

<安全に暮らしていく力>

- (5) 低学年なりに、地域への参加意識を育てるように活動を構成することも大切である。
地域への主体的な働きかけが一層地域への愛着を深めることになる。

- (6) 子どもの生活圏である地域に関心を持ち、地域素材や情報を収集する

<情報を生かす>

子どもの活動を具体的にイメージできるような**生活科マップ**
生活科暦を作成し、活用する。

生活科マップと「学習の成立」

生活科マップ

教師：生活科の教材開発や単元展開のための基礎資料

子ども：学習材や学習したことの表現方法

生活科マップを通して、生活科の「学習の成立」を確認できる。

素材分布・位置、子どもの学習カード

観察や収集できる道具を、セットにして携帯できるものを用意する。

教師自身が子どもの視点に立って、地域を理解するとともに、子どもから、地域について学ぼうとする姿勢で臨むことも大切。

地域環境の把握（地域理解）

- ・ 地域を歩く（ぶらりと歩く、観点をもって歩く）
ゆっくり歩けば歩くほど、地域の景観に親しみがわく。
何度も歩くことで、子どもたちの関心を引き出し、そこへの愛着に結び付く。
- ・ 地域に詳しい教師になる。
- ・ 地域の素材を生かして教材・学習材の開発をする。
- ・ 地域を知らずして、教材開発はできないし、子どもたちに適切な支援もできない。
- ・ いろいろな地図を利用する。
- ・ 図書館や郷土資料館などを訪ねる。
「住んでいる町を好きになる子ども」を育てる。
子どもにとって居心地のよい場所、好きな場所を広げることが、生活への彩りを添えることになる。

多感な子ども時代に、夢中になって遊び、学びを広げていった「愛着のある場所」を、どれだけたくさんもつことができたか、それが豊かな「心のふるさと」をはぐくんでいく。

6 地域に自然を生かした生活科学習

内容(5)「季節の変化と生活」

(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

<身近な自然を観察>

- ・ 実際に野外に出かけ、興味・関心をもって繰り返し観察すること。
- ・ 自分なりの思いや願いをもって進んで自然とかかわる活動をする。
- ・ 体全体を使って自然のよさを十分に味わうこと。
花摘み 虫とり 水遊び など

<身近な自然>

- ・ 子どもが繰り返しかかわることのできる自然
- ・ 四季の変化を観察するのにふさわしい自然
(例). 川や土手, 林, 野原, 山, 湖など
そこで見ることができる生き物, 草花, 樹木など
雪, 氷, 風, 光など

<四季の変化>

- ・ 季節にちなんだ行事
- ・ 生活の様子の変化
- ・ 季節の移り変わりを生活に取り入れる。
五感を使って感じ、自分なりの言葉で豊かに表現する。

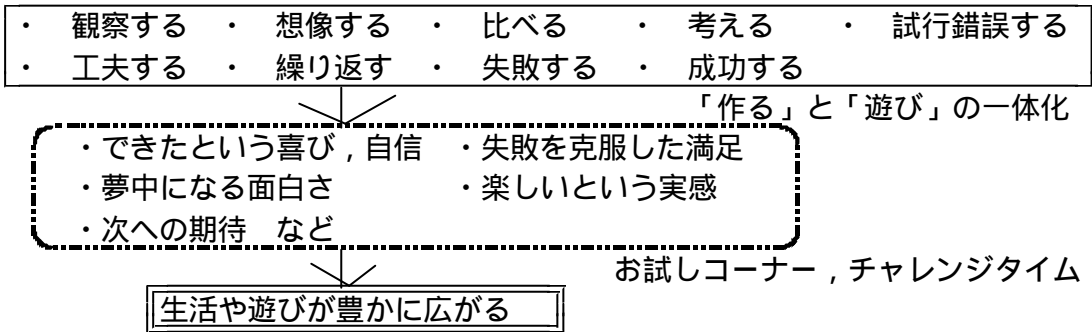
内容(6)「自然や物を使った遊び」

(6) 身の回りの自然を利用したり，身近にあるものを使ったりなどして遊びを工夫し，みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

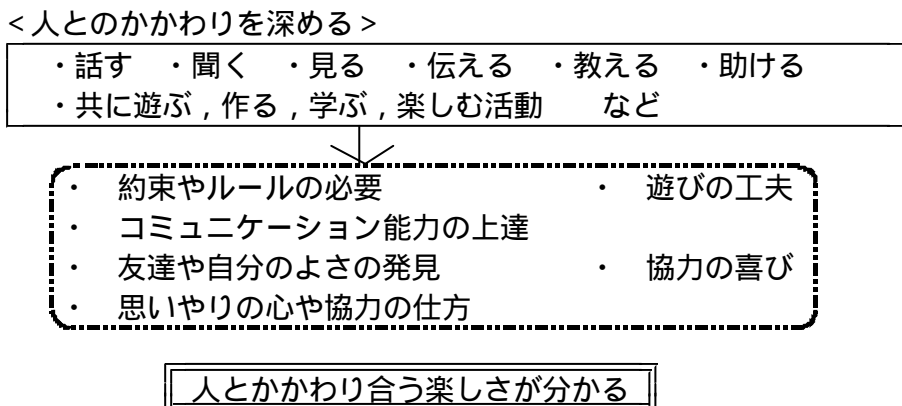
身の回りの自然：子どもを取り巻く自然の中から子どもが自分の遊びの目的のために選出した自然
 (例) 樹木，草花，木の実，木の葉，石，土，光，影，雨，雪，水，風など
 身近にある物：日常生活の中にある様々な物の中で，子どもが遊びに取り入れることができるもの
 (例) 紙，ひも，ビニル袋，空き缶，空き箱など

<「自然や物を使った遊び」の具体化の視点>

- (1) 子どもたちの家庭環境，地域社会，文化的環境，自然環境を把握し，教育の計画立案，内容決定，教材の選択などを行うときに考慮する。
- (2) 仲間と共に遊ぶ，群れて遊ぶ活動や体験を組み入れる。
遊ぶ空間，時間，仲間の確保
- (3) 子どもが「作ってみたい」「自分でやってみたい」という願いをもつ素材との出会いをつくり，工夫して遊びをつくり出す楽しさや夢中になって遊ぶ楽しさを存分に味わわせる。素材をそのまま利用して遊ぶ楽しみから素材を加工したり，遊ぶ物を作り出したりする楽しみへ広がる活動を取り入れる。



- (4) 友達と一緒に遊ぶために遊び方を工夫したり，約束やルールをつくったりして，友達とよりよいかかわりをもつ。協力や教え合い，約束やルールをつくるなど，遊びをより楽しくする工夫する。



<子どもが好んで遊ぶ遊び>

自然を利用したり自然物を使ったりする遊び
不要になった物などを使った遊び
伝承的な遊び

自然や物と一体となる楽しさ
体全体で遊びに浸る心地よさ
工夫して遊びをつくり出す楽しさ

地域の伝承や素材を生かした遊びを取り入れてみよう。

(5) 他の内容や他教科等との関連を図る。

- ・ 内容(5)「季節の変化と生活」と関連させて、四季折々の素材と遊ぶ。
- ・ 内容(8)「自分の成長」と関連させて、幼稚園児を招待して遊ぶ。
- ・ 図画工作や音楽、国語などの他教科等と関連させることもできる。

遊びを通して育つ力

自発性...「自分で」

創造性... 遊び方の工夫

社会性... 友達との人間関係、トラブル、約束やルールを作る・守る

相手の気持ちや考えを尊重する態度

7 地域との連携

(1) 地域環境の理解と活用

- ・ 地域は子どもにとって生活の場であり、学習の場である。
- ・ 地域の環境を知り、生かす。
生活科マップ(自然, 公共施設, 店など) 人材マップ 生活科暦
- ・ 地域の素材を教材化する。

(2) 情報を生かす

- ・ 子ども, 保護者, 地域, 新聞, 掲示板などから収集する。
- ・ 教師自身が地域とそこの中の子どもの姿を知る研修をする。

(3) 地域行事に参加したり見学したりする。

- ・ 地域のよさ, 伝統, 歴史

(4) 家庭・地域社会の理解をし協力を依頼する。

- ・ 遊び・学びの出会いにおいて 身近な地域社会の自然・もの・人との出会いが重要で、身近な地域社会との出会いは、子どもたちの学習や生活を豊かにする。
- ・ 具体的な活動や体験において、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒など多様な人々との触れ合いができるようにする。
- ・ 子どもの活動に参加してもらう。

自分の学校, 町の大すきな子を育てよう

地域へ主体的に働き掛け
学校や地域の特色を生かし
地域をより身近にし
学校や地域への親しみや愛着がわく
生活づくりをする